

《報告書》

金沢市における「選挙に関する意識調査」報告書
－候補者イメージの投票行動への影響を中心に－

岡 田 浩

1. はじめに

本稿は、金沢大学北陸政治行政研究会（代表責任者 岡田 浩）によって2010年7月の参議院選挙後に金沢市で行われた「選挙に関する意識調査」の結果の一部に焦点を当てて分析を加えたものである。

金沢大学北陸政治行政研究会では、2010年7月11日に投票が行われた第22回参議院選挙後の8月4日に、金沢市選挙人名簿に登録されている約36万人の中から無作為で抽出した1,500人の方を対象に、調査票を返送用封筒とともに郵送した。発送後、約3週間の間に708人の方からご回答を頂いた。郵送した数に対する回収率は47.2%である。

この調査の対象となった2010年参院選では、政権与党の民主党が、改選54議席を44（比例16＋選挙区28）に減らす大敗を喫した。一方、自民党は、改選38議席を51（比例12＋選挙区39）に伸ばし、改選議席で第1党となった。民主党は、比例代表選挙では自民党の獲得議席を上回っていたが、地方の1人区を中心に選挙区選挙で自民党に大きく負け越したことが敗北につながった。石川県選挙区（1人区）でも、自民党公認の現職候補が55.5%の票を獲得して、38.5%を獲得した民主党の公認候補を17ポイントの大差で破った。

今回の参院選は、政権獲得前は現状に不満を持つ有権者の期待を集めてきた民主党への「風」がやみ、主要政党間で主張にあまり差がない消費税問題以外には目立った争点もなかったことから、脱官僚など現状打破を強く訴えたみんな

なの党を除いて「風」は吹かなかったといえる。その結果、系列の首長や地方議員が圧倒的に多いなど、依然、地方に強い基盤を持つ自民党が、特に選挙区選挙で地力を発揮したとみることができる。

近年は、候補者や地域の状況とは関係なく、その時々¹の全国的な「風」によって選挙結果が大きく左右されるという選挙結果の全国一律的な変動（ナショナル・スウィング）が顕著になってきているという指摘もあるが²、消費税問題などの全国的な争点や政党への支持などの全国的な要因と比べて、それ以外の要因である地域特有の争点や候補者などは、人々の投票行動にどの程度の影響力を持っているのだろうか。

本稿は、全国的な要因でないもののうち、特に候補者要因に注目して、有権者は候補者をどのようなイメージで捉えているのか、そしてそれは投票行動にどのような影響を与えているのかを、2010年参院選後の金沢市における意識調査のデータを分析することによって明らかにしたい。

2. 候補者要因に関する先行研究の検討

有権者は投票する際、「党」を重視して自分が支持する政党が公認や推薦する候補に投票することもあるだろうし、「人」を重視して候補者個人を評価して投票することもあるだろうし、「争点」を重視して自分の関心のある争点について考えが近かったり方向性が同じ政党や候補者に投票することもあるであろう。本稿で分析する候補者要因は、政党要因や争点要因と並んで、人々の投票行動を規定する3つの重要な要因の1つとして研究がすすめられてきた²。

候補者要因として、これまで日本の投票行動研究で主に取り上げられてきたものとしては、「候補者の認知度」と「候補者への評価」と「候補者イメージ」

1 川人貞史（2004）『選挙制度と政党システム』木鐸社、155-167 ページ。

2 三宅一郎・西澤由隆（1992）「日本の投票行動モデルにおける政党評価要因」『選挙研究』第7号、63-79 ページ。

がある。

「候補者の認知度」は、そもそも候補者は有権者にどの程度認知されているのかということを見るものである。たとえば、回答者に当該選挙区の候補者リストを見せて「名前を知っていますか」や「その候補者をどの程度知っていますか」という質問をするなどによって測定される³。

「候補者への評価」は、候補者の好悪の度合いを、50度を中間として「非常に好き」の100度から「非常に嫌い」の0度に至る「感情温度計」の度数を答えてもらう方法などで測定される⁴。

「候補者イメージ」は、「この選挙区の人々のために、道路の整備や補助金の獲得などでつくしてくれた立候補者がいますか」や「あなたと同じ職業の人々がかかえる問題と、とりくんでくれそうな立候補者がいますか」などの質問で、候補者が代表する利益についてのイメージを答えてもらったり⁵、「手腕のある人」や「識見のある人」など、候補者個人の特性についてのイメージを答えてもらうことにより測定される⁶。

これらの候補者要因の投票行動への影響については、様々な実証研究が蓄積されてきた。しかし、全国的なサンプル調査では、それぞれの候補者について体系的な質問をしたり分析をすることが、対象となる候補者数が多いため困難であるという制約などから、政党要因や争点要因と比べて、その研究はあまり進んできたとは言いがたい⁷。その点、本調査は、対象地域を金沢市に限定した調査であり、具体的な候補者を念頭において詳細に候補者要因を調査・分析できるという利点がある。

本調査では、「今回の参議院選挙の石川県選挙区の立候補者について、どの

3 平野浩（2007）『変容する日本の社会と投票行動』木鐸社、105-106 ページ。

4 今井亮佑（2004）「中選挙区制再考－投票行動と候補者要因」『日本政治研究』第1巻第2号、105 ページ。

5 同上、105 ページ。

6 濱本真輔（2007）「個人投票の低下」『選挙学会紀要』第9号、59-60 ページ。

7 平野浩（2007）、前掲書、104 ページ。

ような印象を持ちましたか。それぞれの候補について当てはまる番号をすべて選んで下さい」という質問文の後に、3人の立候補者の名前と、「政策や主張がよい」「実行力がありそう」「人柄がよい」「以上のいずれの印象もない」の4つの選択肢を並べて複数回答可で答えてもらった。

この質問項目は、先述の候補者要因の分類では、「候補者イメージ」のうち個人的特性に関するイメージに該当する。これまでの投票行動研究では、候補者の個人的特性に関するイメージについては「能力」と「信頼性」が重要だと指摘されてきたが⁸、選択肢中の「実行力がある」と「人柄がよい」がそれぞれに該当する。本調査ではそれに加えて、候補者の個人的特性のみならずその理念や政策への評価も投票行動に影響しているのではないかと考えから「政策や主張がよい」という選択肢も加えている⁹。

以上の質問項目を中心に、有権者は候補者をどのようなイメージで捉えているのか、そしてそれは投票行動にどのような影響を与えているのかを、次節以下で分析していきたい。

3. 分析

1人区の石川県選挙区では、元郵政官僚で民主党公認・国民新党推薦の西原

8 平野浩(2007)、前掲書、114ページや、Kinder, D. R. and Sears, D. O. (1985) Public Opinion and Political Action, In G. Lindzey and E. Aronson (eds.), *Handbook of Social Psychology (3rd edition)*, vol.2, Random House, pp.690-691. を参照。

9 平野浩(1989)は、各候補についての「有能／無能」「信頼できる／信頼できない」「保守的／革新的」など22の項目への有権者の評価を分析した結果、有権者が抱く候補者イメージには、保守か革新かなど政治家としての立場等に関する政策評価の軸と、力強さや有能さなど政治的能力に関する評価の軸と、信頼性などパーソナルな評価の軸の3つの軸が存在すると指摘している。本調査の「政策や主張がよい」という選択肢は、このうちの政策評価の軸に該当する。

平野浩(1989)「情報・イメージ・投票行動 ―記号としての候補者と意味としての候補者イメージ―」『選挙研究』第4号、84-108ページ。

啓候補、現職で２期目を目指す自民党公認の岡田直樹候補、元金沢市議会議員で３年前の前回参院選にも立候補した共産党公認の近松美喜子候補、の３人が立候補していた。

それぞれの候補者についての有権者のイメージを〔表１〕で見てみよう。

〔表１〕 各候補者についての有権者のイメージ¹⁰

	西原候補		岡田候補		近松候補	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
政策や主張がよい	88	12.4%	120	16.9%	54	7.6%
実行力がありそう	80	11.3%	199	28.1%	14	2.0%
人柄がよい	112	15.8%	188	26.6%	42	5.9%
いずれの印象もない	369	52.1%	261	36.9%	432	61.0%
無回答	127	17.9%	98	13.8%	176	24.9%
合計	776	109.5%	866	122.3%	718	101.4%

まず、「印象がない」や無回答の多さに注目すると、やはり現職の岡田候補がもっとも少なく、何らかのイメージを持っている人が多いことがわかる。近松候補は３年前の前回参院選に続いての立候補であったが、そのイメージ量は、今回、新しく立候補した西原候補にも劣っている。連続して立候補してもイメージ量の増加には必ずしもつながらないのであろうか。

候補者ごとの違いにさらに注目すると、岡田候補は現職であり実績をアピールできるゆえか、特に「実行力」が多い。また、６年の任期中、マスメディアの報道などを通じて有権者の目に触れる機会も多かったゆえか「人柄」も多い。「政策」については、新人候補であっても公示後のマスメディアの選挙報道や選挙公報などを通じて触れる機会が多いゆえか、西原・近松候補と岡田候補の差は比較的少ない。

次に、〔表２〕で候補者イメージと支持政党の関係を見てみると、自民・民主・共産の支持者は、当然ながら支持政党の公認候補に全体的によいイメージを持っているが、「印象がない」と答えた人が、岡田候補について自民党支持

10 複数回答可の質問であるので、各候補についてのイメージのパーセントの合計は100を超える。これ以降の表も同様である。

〔表 2〕 「候補者イメージ」と「支持政党」の関係

		支持政党						合計
		自民党	民主党	共産党	その他の 政党支持	支持政党無し	無回答	
各候補の イメージ	西原候補：政策や主張が よい	7 8.0% 3.3%	54 61.4% 32.7%	3 3.4% 16.7%	6 6.8% 9.8%	16 18.2% 7.0%	2 2.3% 8.3%	88
	西原候補：実行力がありそ う	14 17.5% 8.6%	37 46.3% 22.4%	4 5.0% 22.2%	5 6.3% 8.2%	17 21.3% 7.5%	3 3.8% 12.5%	80
	西原候補：人柄がよい	20 17.9% 9.4%	46 41.1% 27.9%	0 .0% .0%	7 6.3% 11.5%	37 33.0% 16.2%	2 1.8% 8.3%	112
	西原候補：以上のいずれ の印象もない	115 31.2% 54.2%	57 15.4% 34.5%	10 2.7% 55.6%	32 8.7% 52.5%	151 40.9% 68.2%	4 1.1% 16.7%	369
	西原候補：無回答	59 48.5% 27.8%	15 11.8% 9.1%	2 1.6% 11.1%	13 10.2% 21.3%	22 17.3% 9.6%	16 12.6% 66.7%	127
	岡田候補：政策や主張が よい	79 65.8% 37.3%	13 10.8% 7.9%	1 .8% 5.6%	5 4.2% 8.2%	20 16.7% 8.8%	2 1.7% 8.3%	120
	岡田候補：実行力がありそ う	94 47.2% 44.3%	26 13.1% 15.8%	1 .5% 5.6%	19 9.5% 31.1%	54 27.1% 23.7%	5 2.5% 20.8%	199
	岡田候補：人柄がよい	93 49.5% 43.9%	31 16.5% 18.6%	1 .5% 5.6%	14 7.4% 23.0%	43 22.9% 18.9%	6 3.2% 25.0%	188
	岡田候補：以上のいずれ の印象もない	36 13.8% 17.0%	69 28.4% 41.8%	12 4.6% 86.7%	28 10.7% 45.9%	113 43.3% 49.6%	3 1.1% 12.5%	261
	岡田候補：無回答	15 15.3% 7.1%	40 40.8% 24.2%	4 4.1% 22.2%	6 6.1% 9.8%	21 21.4% 9.2%	12 12.2% 50.0%	98
	近松候補：政策や主張が よい	2 3.7% .9%	15 27.6% 9.1%	13 24.1% 72.2%	6 11.1% 9.8%	16 29.6% 7.0%	2 3.7% 8.3%	54
	近松候補：実行力がありそ う	4 28.6% 1.9%	1 7.1% .6%	0 .0% .0%	2 14.3% 3.3%	7 50.0% 3.1%	0 .0% .0%	14
	近松候補：人柄がよい	9 21.4% 4.2%	12 28.6% 7.3%	2 4.8% 11.1%	5 11.9% 8.2%	14 33.3% 6.1%	0 .0% .0%	42
	近松候補：以上のいずれ の印象もない	131 30.3% 61.8%	89 20.6% 53.9%	5 1.2% 27.8%	39 8.3% 59.0%	166 38.4% 72.6%	5 1.2% 20.8%	432
	近松候補：無回答	87 38.1% 31.6%	50 28.4% 30.3%	0 .0% .0%	15 8.5% 24.6%	27 15.3% 11.8%	17 9.7% 70.8%	176
合計	212	165	18	61	228	24	708	

者の 17.0%、西原候補について民主党支持者の 34.5%、近松候補について共産党支持者の 27.8% もいる。特に、民主党支持者の間での西原候補のイメージ量の少なさが目立つ。

支持政党を持たない人については、たとえば、公認候補を出していない「その他の政党」の支持者と比べてみると、いずれの候補についても「印象がない」

が多いなど、全体的に候補者についてのイメージ量が少ないことがわかる。

次に、[表3] で、投票候補と候補者イメージの関係を見てみると、西原候補と岡田候補については、政策、実行力、人柄の点でよいイメージを持っている人は、当然ながらその候補者に投票する傾向があることがわかる。しかし近松候補については、たとえよいイメージを持っていても、他の候補者に投票が流れている割合が高い。この理由については後述する。

各候補者について「印象がない」と答えた人には、棄権した人や無回答が多い。候補者イメージが投票の際の重要な手掛かりになっているといえそうである。

また、特に「政策」を評価する人は、その候補者に投票する傾向が強いこともわかる。たとえば、西原候補について「政策」を評価した人は、その78.4%が西原候補に投票しており、「実行力」の68.8%、「人柄」の55.4%よりも多い。岡田候補や近松候補についても同様の傾向がある。

紙幅の制約ゆえ、各候補について「政策」「実行力」「人柄」のいずれかの点で評価した人を「印象がある」として候補者イメージを要約したものと、投票候補と支持政党を組み合わせた[表4]を見てみると、自民党支持者で岡田候補に「印象がない」と答えた17.0% (36人) のうちの77.8% (28人) が、それでも岡田候補に投票している。同じく、民主党支持者で西原候補に「印象がない」と答えた34.5% (57人) のうちの47.4% (27人) が、それでも西原候補に投票している。このことから、たとえ候補者個人についてのイメージが無くても、支持政党の公認候補に投票する人が多いことがわかる。

このことに関連して、今回の調査では、投票した人に対して、「選挙区選挙（石川県選挙区）では、あなたは政党の方を重くみて投票しましたか、それとも候補者個人を重くみて投票しましたか。当てはまる番号を1つ選んで下さい」という質問をしていたので、その結果を見てみると（[表5] 参照）、「政党を重くみて」が43.1%、「候補者個人を重くみて」が21.5%、「どちらともいえない」が12.1%であった。たとえ候補者名で投票する選挙区選挙であって

[表 3] 「投票候補」と「候補者イメージ」の関係

		投票候補				合計
		西原 啓	岡田直樹	近松美喜子	棄権＋無回答	
各候補のイメージ	西原候補:政策や主張がよい	69 78.4% 33.0%	12 13.6% 4.1%	2 2.3% 6.3%	5 5.7% 2.9%	88
	西原候補:実行力がありそう	55 68.8% 26.3%	16 20.0% 5.4%	3 3.8% 9.4%	6 7.5% 3.5%	80
	西原候補:人柄がよい	62 55.4% 29.7%	37 33.0% 12.5%	2 1.8% 6.3%	11 9.8% 6.4%	112
	西原候補:以上のいずれの印象もない	66 17.9% 31.6%	162 43.9% 54.7%	22 6.0% 68.8%	119 32.2% 69.6%	369
	西原候補:無回答	11 8.7% 5.3%	79 62.2% 26.7%	3 2.4% 9.4%	34 26.8% 19.9%	127
	岡田候補:政策や主張がよい	13 10.8% 6.2%	99 82.5% 33.4%	0 .0% .0%	8 6.7% 4.7%	120
	岡田候補:実行力がありそう	32 16.1% 15.3%	138 69.3% 46.6%	4 2.0% 12.5%	25 12.6% 14.6%	199
	岡田候補:人柄がよい	36 19.1% 17.2%	119 63.3% 40.2%	5 2.7% 15.6%	28 14.9% 16.4%	188
	岡田候補:以上のいずれの印象もない	90 34.5% 43.1%	58 22.2% 19.6%	19 7.3% 59.4%	94 36.0% 55.0%	261
	岡田候補:無回答	50 51.0% 23.9%	14 14.3% 4.7%	5 5.1% 15.6%	29 29.6% 17.0%	98
	近松候補:政策や主張がよい	20 37.0% 9.6%	11 20.4% 3.7%	18 33.3% 56.3%	5 9.3% 2.9%	54
	近松候補:実行力がありそう	4 28.6% 1.9%	5 35.7% 1.7%	1 7.1% 3.1%	4 28.6% 2.3%	14
	近松候補:人柄がよい	16 38.1% 7.7%	16 38.1% 5.4%	5 11.9% 15.6%	5 11.9% 2.9%	42
	近松候補:以上のいずれの印象もない	118 27.3% 56.5%	183 42.4% 61.8%	9 2.1% 28.1%	122 28.2% 71.3%	432
	近松候補:無回答	55 31.3% 26.3%	84 47.7% 28.4%	0 .0% .0%	37 21.0% 21.6%	176
合計		209	296	32	171	708

《報告書》金沢市における「選挙に関する意識調査」報告書

〔表4〕 「投票候補」と「候補者イメージ」と「支持政党」の関係

支持 政党			各候補のイメージ（要約）									合 計	
			西原候補： 印象あり	西原候補： 印象がない	西原候補： 無回答	岡田候補： 印象あり	岡田候補： 印象がない	岡田候補： 無回答	近松候補： 印象あり	近松候補： 印象がない	近松候補： 無回答		
自民党	投票候補	西原 啓	4	2	1	2	0	5	0	2	5	7	
			10.5%	1.7%	1.7%	1.2%	.0%	33.3%	.0%	1.5%	7.5%		
		岡田 直樹	29	93	51	138	28	7	13	106	54	173	
			76.3%	80.9%	86.4%	85.7%	77.8%	46.7%	92.9%	80.9%	80.6%		
		近松美喜子	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	
		.0%	.9%	.0%	.6%	.0%	.0%	.0%	.8%	.0%			
棄権＋ 無回答		5	19	7	20	8	3	1	22	8	31		
		13.2%	16.5%	11.9%	12.4%	22.2%	20.0%	7.1%	16.8%	11.9%			
	合計	38	115	59	161	36	15	14	131	67	212		
	民主党	投票候補	西原 啓	83	27	5	37	46	32	19	59	37	115
				89.2%	47.4%	33.3%	66.1%	66.7%	80.0%	73.1%	66.3%	74.0%	
岡田 直樹			7	15	3	14	10	1	3	16	6	25	
			7.5%	26.3%	20.0%	25.0%	14.5%	2.5%	11.5%	18.0%	12.0%		
近松美喜子		0	3	1	1	2	1	3	1	0	4		
	.0%	5.3%	6.7%	1.8%	2.9%	2.5%	11.5%	1.1%	.0%				
棄権＋ 無回答		3	12	6	4	11	6	1	13	7	21		
		3.2%	21.1%	40.0%	7.1%	15.9%	15.0%	3.8%	14.6%	14.0%			
	合計	93	57	15	56	69	40	26	89	50	165		
	共産党	投票候補	西原 啓	2	1	0	0	3	0	2	1		3
			33.3%	10.0%	.0%	.0%	25.0%	.0%	15.4%	20.0%			
岡田 直樹			0	2	0	1	1	0	0	2		2	
			.0%	20.0%	.0%	50.0%	8.3%	.0%	.0%	40.0%			
近松美喜子		4	4	2	1	5	4	10	0		10		
	66.7%	40.0%	100.0%	50.0%	41.7%	100.0%	76.9%	.0%					
棄権＋ 無回答		0	3	0	0	3	0	1	2		3		
		.0%	30.0%	.0%	.0%	25.0%	.0%	7.7%	40.0%				
	合計	6	10	2	2	12	4	13	5		18		
	その他の 政党 支持	投票候補	西原 啓	8	9	1	5	10	3	3	12	3	18
			50.0%	28.1%	7.7%	18.5%	35.7%	50.0%	30.0%	33.3%	20.0%		
岡田 直樹			3	14	10	16	9	2	2	15	10	27	
			18.8%	43.8%	76.9%	59.3%	32.1%	33.3%	20.0%	41.7%	66.7%		
近松美喜子		2	3	0	2	3	0	2	3	0	5		
	12.5%	9.4%	.0%	7.4%	10.7%	.0%	20.0%	8.3%	.0%				
棄権＋ 無回答		3	6	2	4	6	1	3	6	2	11		
		18.8%	18.8%	15.4%	14.8%	21.4%	16.7%	30.0%	16.7%	13.3%			
	合計	16	32	13	27	28	6	10	36	15	61		
	支持政党 無し	投票候補	西原 啓	32	26	3	24	29	8	11	42	8	61
			58.2%	17.2%	13.6%	25.5%	25.7%	38.1%	31.4%	25.3%	29.6%		
岡田 直樹			15	36	8	47	10	2	10	42	7	59	
			27.3%	23.8%	36.4%	50.0%	8.8%	9.5%	28.6%	25.3%	25.9%		
近松美喜子		1	11	0	3	9	0	8	4	0	12		
	1.8%	7.3%	.0%	3.2%	8.0%	.0%	22.9%	2.4%	.0%				
棄権＋ 無回答		7	78	11	20	65	11	6	78	12	96		
		12.7%	51.7%	50.0%	21.3%	57.5%	52.4%	17.1%	47.0%	44.4%			
	合計	55	151	22	94	113	21	35	166	27	228		
	無回答	投票候補	西原 啓	3	1	1	1	2	2	1	2	2	5
			75.0%	25.0%	6.3%	11.1%	66.7%	16.7%	50.0%	40.0%	11.8%		
岡田 直樹			1	2	7	8	0	2	1	2	7	10	
			25.0%	50.0%	43.8%	88.9%	.0%	16.7%	50.0%	40.0%	41.2%		
棄権＋ 無回答			0	1	8	0	1	8	0	1	8	9	
	.0%	25.0%	50.0%	.0%	33.3%	66.7%	.0%	20.0%	47.1%				
合計	4	4	16	9	3	12	2	5	17	24			

も、候補者個人ではなく、政党を重視して選んでいる人が多いことがわかる。

また、[表4]で、支持政党を持たない人に注目すると、西原候補に何らかのイメージを持っている人は、そのうちの58.2%が西原候補に投票し、岡田候補に何らかのイメージを持っている人は、そのうちの50.0%が岡田候補に投票している。一方、支持政党を持たない人で各候補者について「印象がない」と答えた人は、棄権あるいは無回答が顕著に多くなっている。このことから、候補者イメージは、支持政党を持たない人にとっては特に、投票の際の重要な手掛かりになっていることがわかる。

「投票基準（党か人か）」に投票候補を組み合わせてその関係を見てみると（[表5]参照）、西原候補に投票した人の71.3%が政党を重視して投票したと答えており圧倒的に多いのに対して、岡田候補に投票した人では40.2%が候補者個人を重視して投票したと答えている。近松候補への投票者は、候補者個人を重視した人が非常に少なく、政党重視や「どちらともいえない」という回答が多い。

[表5] 「投票基準（党か人か）」と「投票候補」の関係

		選挙区選挙の投票基準(党か人か)				合計
		政党	候補者個人	どちらとも いえない	棄権＋無回答	
投票 候補	西原 啓	149	28	29	3	209
		71.3%	13.4%	13.9%	1.4%	100.0%
		48.9%	18.4%	33.7%	1.8%	29.5%
	岡田直樹	132	119	43	2	296
		44.6%	40.2%	14.5%	.7%	100.0%
		43.3%	78.3%	50.0%	1.2%	41.8%
	近松美喜子	19	3	10	0	32
		59.4%	9.4%	31.3%	.0%	100.0%
		6.2%	2.0%	11.6%	.0%	4.5%
	棄権＋無回答	5	2	4	160	171
		2.9%	1.2%	2.3%	93.6%	100.0%
		1.6%	1.3%	4.7%	97.0%	24.2%
合計	305	152	86	165	708	
	43.1%	21.5%	12.1%	23.3%	100.0%	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

自民党は伝統的に党本部主導ではなく個々の議員主導で分権的な性質が強いといわれるなど¹¹、政党の性質の違いが、このような投票基準の違いとなって表れているのだろうか。あるいは、有権者の認知度が高い現職か、それとも新人かという違いが影響している可能性もある。

本調査では、投票した人に対して、「投票に行かれたのは、どういうお気持ちからですか。当てはまる番号をすべて選んで下さい」という質問文で投票理由を聞いているが、それと投票候補を組み合わせた〔表6〕を次に検討してみよう。

投票理由としては、「政治をよくするためには、とにかく投票することが大

〔表6〕 「投票理由」と「投票候補」の関係

		投票候補				
		西原 啓	岡田直樹	近松美喜子	棄権＋無回答	合計
投票理由	投票理由:候補者	40	91	6	2	139
		28.8%	65.5%	4.3%	1.4%	
		19.1%	30.7%	18.8%	1.2%	
	投票理由:政党	60	53	9	2	124
		48.4%	42.7%	7.3%	1.6%	
		28.7%	17.9%	28.1%	1.2%	
	投票理由:選挙に関心	73	82	7	2	164
		44.5%	50.0%	4.3%	1.2%	
		34.9%	27.7%	21.9%	1.2%	
	投票理由:投票が大事	124	157	22	3	306
		40.5%	51.3%	7.2%	1.0%	
		59.3%	53.0%	68.8%	1.8%	
	投票理由:投票は義務	109	180	16	6	291
		37.5%	55.0%	5.5%	2.1%	
		52.2%	54.1%	50.0%	3.5%	
	投票理由:家族にいわれて	6	7	0	2	15
		40.0%	48.7%	.0%	13.3%	
		2.9%	2.4%	.0%	1.2%	
投票理由:団体や知り合いの勧誘	19	16	1	1	37	
	51.4%	43.2%	2.7%	2.7%		
	9.1%	5.4%	3.1%	.6%		
投票理由:その他	4	5	1	2	12	
	33.3%	41.7%	8.3%	16.7%		
	1.9%	1.7%	3.1%	1.2%		
投票理由:無回答＋棄権	0	2	0	159	161	
	.0%	1.2%	.0%	98.8%		
	.0%	.7%	.0%	93.0%		
合計		209	296	32	171	708

11 吉野孝（2001）「政党組織」川入貞史ほか『現代の政党と選挙』有斐閣、50 ページ。

事だから」が43.2%（306人）で最も多く、「投票するのは義務だと思うから」の41.1%（291人）、「今回の選挙に関心があったから」の23.2%（164人）がそれに続く。「当選させたい候補者がいたから」と答えたのは19.6%（139人）で、「もりたてたい政党があったから」と答えたのは17.5%（124人）であった。

投票候補別に見ると、岡田候補への投票者のうち「当選させたい候補者がいたから」と答えた人は30.7%で比較的多く、西原候補と近松候補への投票者のうち「もりたてたい政党があったから」と答えた人は、それぞれ28.7%と28.1%で比較的多い。

〔表5〕と〔表6〕の分析から、岡田候補については、候補者個人への支持で投票している人が少なくないが、西原候補と近松候補については、候補者個人への支持というよりは政党への支持で投票している人が多いことがわかる。

〔表6〕では、投票理由として「当選させたい候補者がいたから」と答えた回答者の方が、「もりたてたい政党があったから」と答えた回答者より多かったが、これは一見、〔表5〕で見た、選挙区選挙の投票基準として「政党を重くみて」が「候補者個人を重くみて」と比べて圧倒的に多かった結果と矛盾する。これはどのように考えればよいのだろうか。

「投票基準（党か人か）」と「投票理由」を組み合わせた〔表7〕を見ると、候補者個人を重視して投票した人は、投票理由も「当選させたい候補者がいたから」を挙げる人が44.7%で多いが、政党を重視して投票した人は、「もりたてたい政党があったから」という理由を挙げる人だけでなく（26.9%）、「今回の選挙に関心があったから」などその他の理由で投票に行った人も多いことがわかる。このような人にとっては、個々の候補者よりも政党の方がマスメディアなどでも多く取り上げられるので、投票の基準として利用しやすかったのかもしれない。

先述のように、今回の参院選で民主党は、比例代表選挙では自民党の獲得議

[表7]「投票理由」と「投票基準（党か人か）」の関係

		選挙区選挙の投票基準(党か人か)				合計
		政党	候補者個人	どちらとも いえない	棄権+無回答	
投票理由	投票理由:候補者	59 42.4% 19.3%	68 48.9% 44.7%	9 6.5% 10.5%	3 2.2% 1.8%	139
	投票理由:政党	82 66.1% 26.9%	31 25.0% 20.4%	9 7.3% 10.5%	2 1.6% 1.2%	124
	投票理由:選挙に関心	101 61.6% 33.1%	43 26.2% 28.3%	16 9.8% 18.6%	4 2.4% 2.4%	164
	投票理由:投票が大事	180 58.8% 59.0%	89 29.1% 58.6%	34 11.1% 39.5%	3 1.0% 1.8%	306
	投票理由:投票は義務	152 52.2% 49.8%	88 30.2% 57.9%	49 16.8% 57.0%	2 .7% 1.2%	291
	投票理由:家族にいわれて	9 60.0% 3.0%	2 13.3% 1.3%	4 26.7% 4.7%	0 .0% .0%	15
	投票理由:団体や知り合い の勧誘	13 35.1% 4.3%	11 29.7% 7.2%	12 32.4% 14.0%	1 2.7% .6%	37
	投票理由:その他	5 41.7% 1.6%	2 16.7% 1.3%	4 33.3% 4.7%	1 8.3% .6%	12
	投票理由:無回答+棄権	2 1.2% .7%	0 .0% .0%	1 .6% 1.2%	158 98.1% 95.8%	161
	合計	305	152	86	165	708

席を上回っていたが、選挙区選挙で自民党に大きく負け越したことが敗北につながった。

石川県選挙区でも、比例代表選挙の（相対）得票率は、自民党が35.0%、民主党が32.5%、共産党が3.8%で、自民党と民主党は拮抗していたが、選挙区選挙の得票率は、自民党公認の岡田候補が55.5%、民主党公認の西原候補が38.5%、共産党公認の近松候補が6.0%であり、岡田候補が西原候補に17ポイントの大差をつけて勝利した。

本調査の対象となった金沢市では、比例代表選挙の得票率は、自民党が29.3%、民主党が34.2%、共産党が4.9%で、民主党が自民党を上回っていたが、選挙区選挙では、岡田候補が52.0%、西原候補が40.6%、近松候補が7.3%で、

〔表 8〕 「選挙区の投票候補」と「比例区の投票政党」の関係

		投票候補				合計
		西原 啓	岡田直樹	近松美喜子	棄権＋無回答	
比例区の 投票政党 (候補者 名での投 票を含む)	自民党	9	168	0	2	179
		5.0%	93.9%	.0%	1.1%	100.0%
		4.3%	56.8%	.0%	1.2%	25.3%
	民主党	151	36	3	5	195
		77.4%	18.5%	1.5%	2.6%	100.0%
		72.2%	12.2%	9.4%	2.9%	27.5%
	公明党	3	24	1	1	29
		10.3%	82.8%	3.4%	3.4%	100.0%
		1.4%	8.1%	3.1%	.6%	4.1%
	社民党	7	4	1	0	12
		58.3%	33.3%	8.3%	.0%	100.0%
		3.3%	1.4%	3.1%	.0%	1.7%
	共産党	6	4	14	0	24
		25.0%	16.7%	58.3%	.0%	100.0%
		2.9%	1.4%	43.8%	.0%	3.4%
	みんなの党	26	41	10	1	78
		33.3%	52.6%	12.8%	1.3%	100.0%
		12.4%	13.9%	31.3%	.6%	11.0%
	その他の政党	5	12	3	2	22
		22.7%	54.5%	13.6%	9.1%	100.0%
		2.4%	4.1%	9.4%	1.2%	3.1%
	どの政党かわからない	0	1	0	5	6
		.0%	16.7%	.0%	83.3%	100.0%
		.0%	.3%	.0%	2.9%	.8%
	棄権＋無回答	2	6	0	155	163
		1.2%	3.7%	.0%	95.1%	100.0%
		1.0%	2.0%	.0%	90.6%	23.0%
合計	209	296	32	171	708	
	29.5%	41.8%	4.5%	24.2%	100.0%	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

岡田候補が西原候補に 11 ポイント以上の差で上回っていた¹²⁾。

この比例と選挙区の得票率の差はどのように解釈すればよいのだろうか¹³⁾。
候補者への評価から、比例で投票した政党とは異なる政党の公認候補に投票する人が多かったのだろうか。

12 金沢市の得票については、西原候補が石川県南部の小松市出身、近松候補が石川県北部の珠洲市出身であるのに対して、岡田候補が金沢市出身であることが影響している可能性もある。

13 公明党との選挙協力が選挙区における自民党勝利の要因の 1 つであるともいわれたが、公明党の比例の得票率は石川県で 8.7%、金沢市で 8.9% であり、たとえ比例の公明党票が選挙区では全て自民党候補に流れたとしても、それだけではこの差を説明できない。

〔表 8〕を見ると、比例で自民党に投票した人のうち選挙区も岡田候補に投票した人は 93.9%、比例で民主党に投票した人のうち選挙区も西原候補に投票した人は 77.4%、比例で共産党に投票した人のうち選挙区も近松候補に投票した人は 58.3% であった。

共産党の歩留まりが悪いが、どの候補に流れたのかを見ると、比例では共産党に投票しても選挙区では西原候補に投票した人が 25.0% と多い。近松候補については、〔表 3〕 でみたように、たとえよいイメージを持っていたとしても他の候補に投票が流れている割合も高い。これについては、定数 1 の小選挙区制の場合起こるといわれている、有権者は最善だと思いが当選の見込みのない候補者に投票することをやめて、当選の可能性のある二大政党の候補者のうちで、より好ましい（よりましな）候補者に投票するという「戦略投票¹⁴」が、参院選の 1 人区でも同様に起こっていると推測される。

比例では民主党に投票しても、選挙区では岡田候補に投票した人が 18.5% もいるが、これは戦略投票では説明できない。どのように考えればよいのだろうか。

〔表 9〕で、比例では民主党に投票したが、選挙区では岡田候補に投票した回答者（36 人）について詳しく見てみると、その 50% が西原候補について「印象がない」と答えている一方、岡田候補の「実行力」や「人柄」を評価している人が多いことがわかる。このことから、これらの回答者は、候補者個人を評価して、選挙区では比例とは違う投票行動をとったと推測される。

4. おわりに

14 有権者が単純に自分の好き嫌いのみに基づいて投票するのではなく、選挙の情勢を考慮に入れて投票することをいう。

岡田浩・松田憲忠（編著）（2009）『現代日本の政治—政治過程の理論と実際—』ミネルヴァ書房、45 ページ参照。

〔表9〕 「候補者イメージ」と「比例と選挙区の投票」の関係

		比例と選挙区の投票									合計
		自民＋岡田	自民＋西原	自民＋岡田・西原以外	民主＋西原	民主＋岡田	民主＋岡田・西原以外	共産＋近松	共産＋近松以外	比例は自・民・共以外＋賛成	
各候補のイメージ	西原候補：政策や主張がよい	5	0	0	60	3	0	2	3	15	88
		3.0%	.0%	.0%	39.7%	8.3%	.0%	14.3%	30.0%	4.8%	
	西原候補：実行力がありそう	9	5	0	42	3	0	2	2	17	80
		5.4%	55.6%	.0%	27.8%	8.3%	.0%	14.3%	20.0%	5.5%	
	西原候補：人柄がよい	21	4	0	44	6	0	0	2	35	112
		12.5%	44.4%	.0%	29.1%	16.7%	.0%	.0%	20.0%	11.3%	
	西原候補：以上のいずれの印象もない	93	0	0	44	18	4	7	5	198	369
		55.4%	.0%	.0%	29.1%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	63.9%	
	西原候補：無回答	46	1	2	5	8	4	3	0	58	127
		27.4%	11.1%	100.0%	3.3%	22.2%	50.0%	21.4%	.0%	18.7%	
岡田候補	岡田候補：政策や主張がよい	65	1	0	11	8	0	0	3	32	120
		38.7%	11.1%	.0%	7.3%	22.2%	.0%	.0%	30.0%	10.3%	
	岡田候補：実行力がありそう	87	1	0	26	11	0	2	3	69	199
		51.8%	11.1%	.0%	17.2%	30.8%	.0%	14.3%	30.0%	22.3%	
	岡田候補：人柄がよい	71	1	0	28	11	1	2	1	73	188
		42.3%	11.1%	.0%	18.5%	30.6%	12.5%	14.3%	10.0%	23.5%	
	岡田候補：以上のいずれの印象もない	25	3	0	61	10	4	8	6	146	261
		14.9%	33.3%	.0%	40.4%	27.8%	50.0%	42.9%	60.0%	47.1%	
	岡田候補：無回答	8	3	2	34	5	3	5	0	38	98
		4.8%	33.3%	100.0%	22.5%	13.9%	37.5%	35.7%	.0%	12.3%	
近松候補	近松候補：政策や主張がよい	2	0	0	15	2	1	11	3	20	54
		1.2%	.0%	.0%	9.9%	5.8%	12.5%	78.6%	30.0%	6.5%	
	近松候補：実行力がありそう	3	0	0	2	0	0	0	1	8	14
		1.8%	.0%	.0%	1.3%	.0%	.0%	.0%	10.0%	2.6%	
	近松候補：人柄がよい	11	1	0	11	2	1	3	1	12	42
		6.5%	11.1%	.0%	7.3%	5.8%	12.5%	21.4%	10.0%	3.9%	
	近松候補：以上のいずれの印象もない	106	5	0	87	21	2	1	5	205	432
		83.1%	55.6%	.0%	57.6%	58.3%	25.0%	7.1%	50.0%	86.1%	
	近松候補：無回答	48	3	2	39	11	4	0	0	69	178
		28.6%	33.3%	100.0%	25.8%	30.6%	50.0%	.0%	.0%	22.3%	
合計		168	9	2	151	38	8	14	10	310	708

本稿では、有権者は候補者をどのようなイメージで捉えているのか、そしてそれは投票行動にどのような影響を与えているのかについて分析をしてきた。

全体的にいえることは、現職の岡田候補についてすら「印象がない」という回答が36.9%と多いなど（無回答も合わせると50.7%）、候補者についてのイメージを何ら持っていない人が少なくないことである。たとえば、民主党の支持者であっても、西原候補について34.5%が「印象がない」と答えているなど、公認候補を出している政党の支持者に限っても候補者についてのイメージを持たない人が多い。一方、たとえ候補者個人についてのイメージが無くても、支持政党の公認候補に忠実に投票する人は多い。また、候補者名で投票する選挙区選挙であっても、候補者を基準に投票する人は、政党を基準にする人の半分程度でしかないなど、候補者要因の影響力は政党要因に比べると限定的であることがわかった。

しかし、候補者について何らかのよいイメージを持っている人については、

それは投票行動に大きな影響を与えていることもわかった。各候補者について何らかのよいイメージを持つ人には投票に行った人が多く、逆に各候補者について「印象がない」と答えた人には棄権した人が多い。特に、支持する政党を持たない人はその傾向が顕著であり、支持政党を持たない人にとっては、候補者イメージが投票の際の重要な手掛かりになっていることがわかった。また、比例では民主党に投票しても、民主党公認の西原候補へのイメージが無く、むしろ自民党公認の岡田候補によいイメージを持つ人は、選挙区では岡田候補に投票している人が多いことにみられるように、候補者イメージが、ふだんの支持政党や比例での投票政党とは異なった政党の公認候補への投票につながることも少なくない。「政策」「実行力」「人柄」の3つの候補者イメージの中では、特に「政策」についてよいイメージを持つことが、その候補者への投票につながりやすいということも明らかになった。

候補者ごとのイメージの違いを見てみると、自民党公認の岡田候補については、現職であるゆえか、何らかのイメージを持っている人が多い。特に、6年の任期中の業績をアピールできるゆえか「実行力」の点で評価する人が多い。また、任期中のマスメディア等への露出ゆえか「人柄」についてもよいイメージをもつ人が多い。新人の民主党公認の西原候補と共産党公認の近松候補については、岡田候補に比べてイメージを持っている人が全体的に少ない。特に「実行力」や「人柄」についての評価が少ない。「政策」については、新人候補であっても公示後のマスメディアの選挙報道や選挙公報などを通じて有権者が触れる機会が多いゆえか、西原・近松候補と岡田候補の差は比較的少ない。近松候補については、3年前の前回参院選に続いての立候補であるにも関わらずあまりイメージを持たれておらず、連続して立候補することが必ずしもイメージ量の増加につながらないことを伺わせる。

候補者イメージと投票行動の関係について候補者ごとに見てみると、自民党の岡田候補への投票者は、候補者個人を評価して投票している人が少なくないが、民主党の西原候補や共産党の近松候補への投票者は、候補者個人というよ

りも政党を評価して投票している人が多い、という違いがあることがわかった。

以上が本稿の分析で明らかにできたことであるが、今後の課題としては以下の3つを挙げておきたい。

第1に、年齢などの有権者の属性や、関心を持っている争点などの意識や、団体加入やメディア接触など、本稿で取り上げた要因以外の要因と候補者イメージの関係についてさらに分析をすすめる必要がある。それは、どのような有権者がどのような候補者の特性を評価するのかや¹⁵、候補者イメージがどのようにして形成されるのかを明らかにすることにつながるだろう。

第2に、本稿の分析から、候補者によって有権者のイメージやその投票行動への影響が異なることが明らかになったが、それは、現職か新人かという違いを反映しているのか、所属政党の性質の違いを反映しているのか、それとも候補者の特性の違いを反映しているのかについて、本稿では十分に分析できなかった。今後、複数の選挙や候補者について調査・分析を重ねることでこの点を明らかにしていきたい。

第3に、本稿では、投票行動に影響を与える候補者要因として先行研究で取り上げられてきたもののうち、候補者の個人的特性や政策についての「候補者イメージ」にのみ注目をして分析してきたが、今後さらに、「候補者の認知」や「候補者への評価」なども含めた候補者要因全体の構造やその投票行動への影響について明らかにしていく必要がある。

本稿は、2010年参院選後の金沢市における意識調査を、特に候補者イメージに注目して分析をしてきたが、まだ多くの課題が残されており、今後さらに調査・分析を進める必要がある。

本稿の最後に、お忙しい中、本調査にご回答を頂いた708人の方々に厚く御礼申し上げます。

15 たとえば、国全体の利益などよりも地元の利益を重視する人は、議員に、識見や清潔さよりも、中央からの配分利益獲得の手腕を期待している人が多いと指摘する研究もある。

三宅一郎(1987)「地元利益志向と保守化」『レヴァイアサン』第1号、31-46ページ。